

プロバスケ、関市出身の楯選手 「悔しさバネに努力」

市役所訪問 中学時代振り返る



サイン入りのユニホームを尾関健治市長に
手渡した楯昌宗さん(右)＝関市役所

関市出身のプロバスケット
ボール選手の楯昌宗さん
(33)が16日、市役所を訪れ、
尾関健治市長に今後の抱負

を語った。

楯さんは、地元の倉知小学校、緑ヶ丘中学校を卒業し、バスケット強豪校の美濃加茂高校では全国大会にも出場した。大学卒業後に就職したが、プロの夢を諦め切れず、2013年に合同トライアウトを受けて信州ブレイブウォリアーズに入団。Bリーグが発足した16年にはB1の仙台89ERSに所属し、トップリーグの第一線で活躍した。昨シーズンはライジングゼファーフクオカに所属した。

楯さんは、中学時代に控え選手だったことを明かし、「あの悔しさがあった努力できた」と強調。今後

の子ども向けスクール事業の構想を説明し、「諦めずにやるのが目標につながる」と子どもたちに伝えた。
「い」と語った。尾関市長は「夢を追ってコートに立つことは素晴らしい」と話した。
(河合修)